

中心市街地活性化基本計画 フォローアップ実施マニュアル

平成28年3月

内閣府 地方創生推進室

目次

I. 中心市街地活性化基本計画のフォローアップについて	1
II. フォローアップ実施時期について	3
III. 定期フォローアップ	4
1. 定期フォローアップの概要	
2. 定期フォローアップに係る留意点	
3. 定期フォローアップの実施スケジュール	
4. 定期フォローアップ報告書の記載例	
IV. 最終フォローアップ	9
1. 最終フォローアップの概要	
2. 最終フォローアップに係る留意点	
3. 最終フォローアップの実施スケジュール	
4. 最終フォローアップ報告書の記載	

I. 中心市街地活性化基本計画のフォローアップについて

認定を受けた中心市街地活性化基本計画（以下、基本計画）は、法律及び基本方針に基づき、認定市町村自らが取組（事業等）の進捗状況や目標達成状況等をフォローアップ（自己評価）することとされています。フォローアップには、計画期間中に実施する「定期フォローアップ」と計画期間終了後に実施する「最終フォローアップ」の2種類があります。

「定期フォローアップ」は、自己評価で明らかとなった取組の進捗状況、目標達成の見通し、目標指標の基準値からの改善状況等を踏まえ、必要と認められる場合には速やかに基本計画の見直しを行うことを主な目的としており、原則毎年実施するものです。

「最終フォローアップ」は、基本計画の終了後に取組の進捗状況や目標達成状況に加えて、中心市街地全体の活性化の状況や市民意識の変化など、中心市街地活性化に向けた取組に関する総合的な評価を行うことを主な目的としています。

本マニュアルは、「定期フォローアップ」と「最終フォローアップ」それぞれの基本的な方針や実施方法等についてまとめたものです。

【参考】

中心市街地の活性化に関する法律

（報告の徴収）

第十二条 内閣総理大臣は、第九条第十項の認定（前条第一項の規定による変更の認定を含む。）を受けた市町村（以下「認定市町村」という。）に対し、認定基本計画（認定基本計画の変更があったときは、その変更後のもの。以下同じ。）の実施の状況について報告を求めることができる。

2 関係行政機関の長は、認定市町村に対し、認定基本計画（第九条第二項第二号から第八号までに掲げる事項に限る。）の実施の状況について報告を求めることができる。

中心市街地の活性化を図るための基本的な方針

第2章 中心市街地の活性化のために政府が実施すべき施策に関する基本的な方針

6. 認定基本計画の実施状況についての評価の実施等

（1）認定基本計画の進捗状況の把握等

① 中心市街地の活性化に向けては、基本計画の認定が目的ではなく、設定した目標に向かって着実に効果的に事業を実施していくことが重要である。そのためには、不断に事業効果の検証、改善、実施といったPDCAサイクルの確立が必要である。

このため、基本計画の認定を受けた市町村は、認定基本計画に記載された取組の着実な実施を通じて、中心市街地の活性化が実現できるよう、計画期間中、原則毎年フォローアップ（定期フォローアップ）を行うよう努めるものとするとともに、計画期間終了後には、基本計画に関する最終的なフォローアップ（最終フォローアップ）を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

フォローアップに当たっては、市町村は、認定基本計画の目標の達成状況に関する評価指標を設定している場合には、当該目標の達成状況について、評価指標に基づき評価するとともに、基本計画の作成時に中心市街地の現状分析で用いた基礎データについては、毎年把握・蓄積し、独自に評価した上で、公表することが望ましい。

- ② 定期フォローアップに基づき、市町村は、認定基本計画に記載された事項と中心市街地の現状や事業等の実施状況、目標の達成状況等から判断し、必要と認められる場合には、協議会と連携して、速やかに当該認定基本計画の見直しを行い、見直した基本計画について、再度認定の申請を行うよう努めるものとする。
- ③ 最終フォローアップにおいては、市町村は、目標の達成状況、事業実施前後での中心市街地の状況、市民意識の変化など、取組の実施を通じた認定基本計画の成果等について評価するとともに、今後の課題について整理するよう努めるものとする。
- ④ 認定計画の期間を終了し、再度新たな基本計画の認定申請を行おうとする市町村は、最終フォローアップの結果を新たな基本計画に的確に反映するよう努めるものとする。また、内閣総理大臣は、認定に当たっては、その反映状況等について確認する。
- ⑤ 内閣総理大臣は、基本計画の認定を受けた市町村に対し、上記フォローアップの結果を含め中心市街地の活性化の状況等について、報告を求め、その内容を公表するとともに、その成果を基本計画の認定や中心市街地の活性化に関する施策の推進に活用する。

Ⅱ. フォローアップ実施時期について

各目標指標のフォローアップ実施時期は、基本計画第3章の「フォローアップの考え方」に記載することとされていますが、適時・的確にフォローアップを実施するため、基本計画の認定後、フォローアップの実施時期及び実績データの年度について、以下のフォーマットを用いて申告して頂きます。

認定市町村は、申告した内容に基づいて、定期フォローアップ及び最終フォローアップを実施して頂きます。各フォローアップ時点での基本計画の記載内容と齟齬のない記載をお願いします。

計画期間中に、データの測定方法や時期等に変更があった場合は、直ちに内閣府に報告して下さい。

【記載例】
フォローアップ実施調査票

計画名：〇〇市中心市街地活性化基本計画
前期計画期間：平成20年4月～平成25年3月
新期計画期間：平成25年4月～平成30年3月

例えば、H26年度のフォローアップは、H26年度末（H27年3月末）時点で、H26年度実績（H27年3月末実績）を以てして報告書をご提出頂きます。

基本計画ベースで記載してください。

表1 定期・最終フォローアップの実施時期及び実績データの年度

指標	単位	測定方法	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
居住人口	人	住民基本台帳						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
									H21.3	H22.3	H23.3	H24.3	H25.3	H26.3	H27.3	H28.3	H29.3	H30.3		
小売業年間商品販売額	百万円	アンケート等による市独自調査						×	×	○	×	○	×	×	○	×	○			
									H22.10		H24.10		H27.10		H29.10					
空き店舗率	%	商工会議所独自調査						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
									H21.2	H22.2	H23.2	H24.2	H25.2	H26.2	H27.2	H28.2	H29.2	H30.2		

最終フォローアップ

指標に合わせて、適宜、『行』を追加してください。2期にて指標を変更した場合も、適宜『行』を追加してください。

各年度におけるフォローアップ報告書の提出について○×を記載してください。

使用する数値の測定時期について記載してください。平成26年2月であれば、「H26.2」と記載。

※記載例では、小売業年間商品販売額を計画の中間年である平成27年度のみ測定することとしています。目標指標は、毎年実績値を把握することが可能なものを設定することが望ましいですが、予算の制約など真にやむを得ない場合はこの限りではありません。ただし、この場合でも実績値が把握可能な目標指標が1つでもあれば定期フォローアップ報告書をご提出して頂く必要があります。

Ⅲ. 定期フォローアップ

1. 定期フォローアップの概要

定期フォローアップは、計画期間中に原則毎年実施するフォローアップです。

具体的には、各年度終了時点の中心市街地の概況、目標指標ごとの目標達成見通しとその理由、取組の進捗状況、事業効果、今後の対策などについて評価・報告をして頂き、自己評価で明らかとなった現状や課題を踏まえ、必要と認められる場合には、中心市街地活性化協議会と連携して、速やかに基本計画の見直しを行うことを主な目的としています。

フォローアップ報告書は、各市町村のホームページ等で公表して頂くほか、内閣府において年度ごとに報告書を作成し公表します。

2. 定期フォローアップに係る留意点

設定した目標指標のうち、年間小売販売額など毎年実績値を把握することが困難なものがあり、すべての指標を評価できない場合があります。こうした場合は、実績値を把握可能な指標のみ評価を実施し、これを基にフォローアップ報告書を作成してください。

なお、目標指標の実績値は、フォローアップ実施年度の3月末までに調査が実施され、翌年度の4月末までに取りまとめられるものを基本とします（※1）。

よって、フォローアップ実施年度と使用するデータの年度が異なることがあるため、注意が必要です（※2）。

※1：例えば、3/31時点での住民基本台帳調査で、4月にとりまとめを行う場合が該当します。

※2：歩行者通行量などはフォローアップ実施年度とデータの年度が同一の場合が多いですが、年間観光客数や年間施設利用者数のように、調査実施時点から取りまとめまで時間を要するものがあります。

（例えば、フォローアップ実施は平成25年度ですが、それに使用するデータは平成24年度という場合があります。）

3. 定期フォローアップの実施スケジュール

概ね以下のようなスケジュールで実施します。

【定期フォローアップのスケジュール】

3月 : 内閣府から定期フォローアップの実施依頼

5月中旬 : 定期フォローアップ報告書を内閣府に提出

（目標指標の実績値は、3月末までに調査が実施され、4月末までに取りまとめが行われるものを基本）

5月中旬～6月 : 定期フォローアップ報告書の内容調整

6月中 : 各市町村のHP等で定期フォローアップ報告書を公表

7月中 : 内閣府の取りまとめ報告書を公表

4. 定期フォローアップ報告書の記載例

記載例

平成27年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成〇年3月

〇〇市（都道府県名）

〇計画期間：平成〇年〇月～平成〇年〇月（〇年〇月）

計画書のとおりに記載して下さい。

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成27年度終了時点（平成28年3月31日時点）の中心市街地の概況

各年度終了時点における中心市街地の概況について20行程度で記載して下さい。ここでは、目標指標の実績値といった定量的な評価に係る内容だけではなく、中心市街地の雰囲気などの数値に表れない定性的な内容（プラス面・マイナス面の両方）を中心に記載して下さい。また、中心市街地活性化に大きな効果を発揮した事業があれば記載して下さい。

【記載例】

本市は、平成〇年〇月以降、認定基本計画に基づき、「……」といった方針のもとに各事業を実施しており、これまで郊外に流出していた人の流れが中心市街地に回帰する傾向となるなど、徐々に中心市街地の賑わいが創出されている。特に、官民が連携して中心市街地活性化に取り組んでいることにより、複数の民間マンション建設が進められるなど、中心市街地における民間投資が活発になるといった好循環が生まれつつある。

また、〇〇駅前の再開発事業の一環である……施設の整備が完了したことにより、中心市街地はもとより本市の玄関口として集客・回遊の拠点機能となるとともに、街のシンボリックな存在として賑わいの創出に大きく寄与している。

一方で、空き店舗への新規出店に対する補助や地権者・出店者とのマッチング等を実施しているが、閉店に歯止めがかからない状況が続いており、依然として商店街のシャッター通り化は解消していない。

※認定後1～2年目の計画で、上記記載例のような直接的な効果が表れていない場合には、中心市街地活性化に向けた取組状況について記載して下さい。

2. 平成27年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

認定基本計画に関するフォローアップ実施年度の取組や中心市街地の概況について、中心市街地活性化協議会としての意見を記載して下さい。

【記載例】

〇〇市と協議会で月1回の定例会議を開催するとともに、商業・居住・観光といった分野ごとのワーキンググループを設けて新規事業の検討を行うなど、官民が密接な連携をして取り組むことができた。商店街組合からは、「来客数が増えた」「商店街に賑わいが戻りつつある」といった声も頂いており、基本計画は概ね順調に進捗していると評価する。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
<p>フォローアップ実施時期報告（P3）に従って、実績値を記載して下さい（対象外の指標は「-」）。提出時点で最新値がまとまらない場合は、直近のデータを記入し、「〇月〇日確定」と記載して下さい。</p>					①	①
計画中の進捗状況		100,000 人	130,000 人 (H28)	人 (H26)	①	②
			8,500 人	8,000 人 (H26)	③	③
<p>各目標指標の取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しについて下記の①～④（詳細はP8参照）に沿って分類して下さい。</p>						
商	空き店舗数	50 店舗	35 店舗	平成〇年度フォローアップ		
<p>フォローアップ対象外の指標は、「最新値」と「見通し」の欄を結合し、「平成〇年度フォローアップ」と記載して下さい。</p>						

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「1. 目標達成の見通し」で各目標指標の達成見通しを選択した理由について、事業の進捗状況や効果に触れながら記載して下さい。

【記載例】

「歩行者・自転車通行量」については、平成〇年〇月に中心商店街において生鮮食料品などを取り扱う商店とイベントスペースを備えた複合施設が完成したことで通行量が大幅に増加した。「年間公共施設利用者数」については、……であった。「居住人口」については、……であった。「空き店舗数」については、……であった。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回のフォローアップから見通しが変わった場合は、その概要と具体的な理由について記載して下さい。なお、前回フォローアップを行っていない場合や見通しの分類が変わっていない場合は、「前回フォローアップは実施していない」「前回フォローアップの実施から変更はない」と記載して下さい。

【記載例】

「年間公共施設利用者数」については、平成▲年度フォローアップにおいては新たに整備した●●が予想を上回る集客を呼び目標達成可能（①）と見込んでいたが、その後、集客力が鈍化し、平成〇年度は前年度比〇〇人減となったため、②と評価した。

目標指標名は基本計画のとおり記載するとともに、設定の考え方の該当ページも記載して下さい。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量（休日）」※目標設定の考え方基本計画 PO～PO参照

●調査結果の推移

計画期間前からのトレンドも踏まえつつ、これまでの実績値をグラフにして下さい。認定前、認定後、基準値、目標値はそれぞれ色で区別して下さい。マニュアルに合せ体裁を統一するとともに、単位等については基本計画に掲載のグラフと合わせて下さい。

グラフ

基準年から目標年までの数値を表に記載して下さい。表中で、フォローアップ対象の年度・数値のセルは黄色に塗って下さい。

年	(単位)
HO	〇〇 (基準年値)
HO	
HO	
HO	
HO	
HO	〇 (目標値)

※調査方法：(記載例) 歩行者・自転車通行者、毎年〇月の第×週土曜日に7地点において10～19時で計測

※調査月：(記載例) 平成〇年〇月

※調査主体：(記載例) 〇〇市 **調査方法、調査月、調査主体、調査対象を記載して下さい。**

※調査対象：(記載例) 中心市街地内〇地点(●●センター前、××駅前、・・・)における歩行者及び自転車の通行量

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

基本計画第3章で目標値の積算根拠として記載している事業を中心に、当該目標指標の達成に寄与する各主要事業の進捗状況及び効果を記載して下さい。

認定後に追加した事業は、事業名の前に【追加】と記載して下さい。

①. 〇〇事業(事業主体名)

事業完了時期

平成〇〇年度【済】【未】【実施中】

基本計画の事業完了時期と比べ、事業に遅れがある場合は「事業効果及び進捗状況」の欄にその旨を記載して下さい。

ハード事業：未着手の場合は【未】、事業に着手している場合は【実施中】、事業が完了している場合は【済】と記載してください。
ソフト事業：未実施の場合は【未】、継続実施中の場合は【実施中】、事業が完了した場合は【済】と記載して下さい。

事業概要

3行程度で簡潔に記載して下さい。

事業効果及び進捗状況

事業が完了している場合は、当初の計画と比較するなど定量的な効果を記載して下さい。事業が完了していない場合は、直近の進捗状況と目標数値の設定時に見込んだ事業効果を記載して下さい。事業が計画通り進捗していない場合は、その理由と今後の対策を記載して下さい。

【記載例】

〇〇整備事業が完了し、年間・・・人の集客効果が生まれたことにより、近隣地域で歩行者・自転車通行量が〇〇人増加したのみならず、周辺地区の賑わいや回遊性の向上に寄与した。

事業が計画通り進捗していない場合は、その理由と今後の見通しを記載して

下さい。

【記載例】

資材高騰等の影響により着工が遅れたため、当初の計画より〇年遅れているが、〇〇再開発準備組合が本組合に移行する等、事業完了に向け順調に進行している。平成〇〇年〇月の完了を目指している。

●目標達成の見通し及び今後の対策

目標達成の見通し及び今回の評価を踏まえた今後の対応方針について記載して下さい。

【記載例】

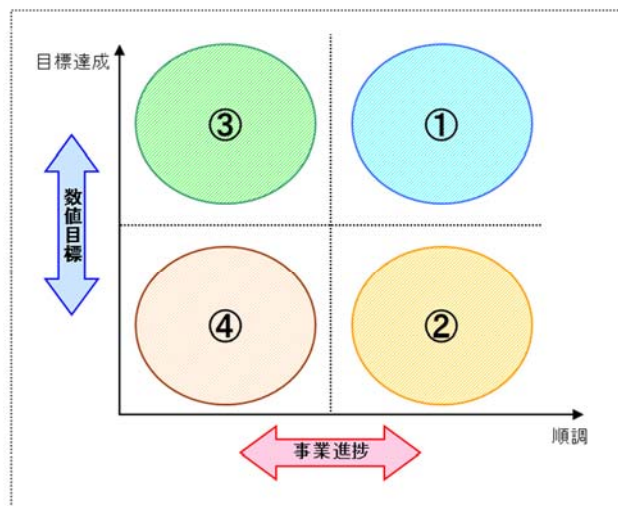
主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能だと思われる。今後は、〇〇イベントの開催や商店における××といった取組を総合的に実施することで、中心市街地内全体に効果を波及させ、さらに実績を伸ばしていきたい。

フォローアップ報告における目標指標毎の目標達成の見通しについて

数値目標達成に関する見通しの分類

- ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

イメージ図



IV. 最終フォローアップ

1. 最終フォローアップの概要

最終フォローアップは、計画期間終了後に実施するフォローアップです。

具体的には、基本計画の実施前後で中心市街地がどのように変化したのか、基本計画の目標が達成されたのか、市民意識にどのような変化があったのかといった内容について評価・報告をして頂きます。また、計画期間終了年度における目標指標の実績値、事業実施状況など、基本計画の成果について評価するとともに、今後の課題について整理します。特に、再度新たな基本計画の認定申請を行おうとする市町村は、最終フォローアップの結果を新たな基本計画に的確に反映することが必要です（新たな基本計画の認定にあたって、内閣府はその反映状況等を確認します）。

フォローアップ報告書は、定期フォローアップと同様に、各市町村のホームページ等で公表して頂くほか、内閣府において年度毎に報告書を作成し、公表します。

2. 最終フォローアップに係る留意点

(1) 目標指標のデータについて

最終フォローアップにおいては、基本計画に定められている目標指標全てが対象となります。原則、計画期間終了年度の成果（目標指標の実績値を含む）についてフォローアップし、計画期間満了から2ヶ月以内に内閣府に提出し、概ね3ヶ月後に公表して頂きます（※1）。目標指標の実績値は、計画期間終了年度（※2）に調査が実施され、計画期間終了後2ヶ月以内に取りまとめられるものを基本とします（※3）。

なお、国の統計調査（例：経済センサス）の公表時期等の関係で、計画期間終了年度のデータが揃わない場合は、推計値によるフォローアップも可とします。

※1：年度途中で計画期間が満了する場合も同様です（6月終了の場合、8月末に提出）。

※2：年度途中で計画期間が満了する場合は、満了日から遡って1年以内のデータも可とします。

（27年6月末終了の場合、26年7月から27年6月までのデータ）。

※3：3/31時点の住民基本台帳調査で、4月にとりまとめを行う場合や、2月に実施した歩行者通行量調査のとりまとめが5月に完了する場合などが該当します。

(2) 最終フォローアップ報告書提出後のデータ更新について

最終フォローアップ報告書の提出期限までに計画期間終了年度のデータの取りまとめが完了しない場合は、最新値が確定した後、報告書に追記することが可能です（この場合は、事前に内閣府にご相談下さい）。

データ更新は、既に公表された内容を変更するのではなく、あくまで最新値の追記という形になりますのでご留意下さい。

【例】最終フォローアップは推計値で実施し、フォローアップ報告書の公表から半年後に調査結果が確定したため、その確定値およびその数値に基づいた総括内容を追記しておきたい場合など。

3. 最終フォローアップの実施スケジュール

概ね以下のようなスケジュールで実施します（3月末に計画期間満了の場合）。

【最終フォローアップのスケジュール】 ※平成27年3月末に計画期間満了の場合

- 3月 : 内閣府から最終フォローアップの実施依頼
- 5月末 : 最終フォローアップ報告書を内閣府に提出
（目標指標の実績値は、3月末までに調査が実施され、5月末までに取りまとめが行われるものが基本（推計値も可））
- 6月 : 最終フォローアップ報告書の内容調整
- 6月中 : 各市町村のHP等で最終フォローアップ報告書を公表
- 7月中 : 内閣府の取りまとめ報告書を公表

4. 最終フォローアップ報告書の記載例

記載例

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成〇年〇月

〇〇市（都道府県名）

全体総括

〇計画期間；平成〇年〇月～平成〇年〇月（〇年〇ヶ月）

基本計画のとおりに記載して下さい。

1. 計画期間終了後の市街地の状況(概況)

基本計画に基づいて活性化の取組を実施した結果、中心市街地がどのように変化したのかを目標指標の実績値といった定量的な評価に係る内容だけでなく、中心市街地の雰囲気などの数値に表れない定性的な内容（プラス面・マイナス面の両方）を中心に 20 行程度で記載して下さい。また、特にどの事業がどのような効果を発揮したのかを記載して下さい。

なお、前計画が終了し、新計画の認定を受けている市町村については、新計画記載の前計画の総括に係る内容をそのまま記載するのではなく、計画期間終了時点における最新の状況を記載して下さい（基本計画のコピーアンドペーストは不可）。

【記載例】

基本計画に基づき、『市民が便利で豊かに過ごせる街』を目指して各事業を実施したところ、郊外に流出していた人の流れが中心市街地に戻ってくる等にぎわいが創出された。行き交う市民、商店街の各店主が活気に溢れており、総じて中心市街地全体が明るくなったと感じられる。

特に、駅近くの撤退した商業ビル跡地を活用した複合施設は多様な人々の集客・回遊の拠点機能となっており、まちなかのにぎわい創出に大きく寄与している。また、商店街が中心となって毎週実施している「マルシェ」は好評で、市外も含め年間〇〇〇人の来客があった。来街効果とともに、商店街と市民が一体となってマルシェを楽しむことで、街の一体感の創出に繋がっている。

一方で、長引く不況の影響もあり、空き店舗は計画期間前よりも増加するなど、中心市街地全体の商業活性化は継続的な課題となっている。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか(個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

中心市街地活性化協議会及び市民の意見等も参考にしつつ、認定市町村として、基本計画で掲げた事業が予定どおり進捗・完了したかどうか、また、中心市街地の活性化が図られたかどうかについて、当てはまる選択肢を○で囲んで下さい。

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

2. における選択肢について、その判断した理由を、事業進捗率やデータ等を用いて具体的に記載して下さい。

その際、基本計画に記載した取組や設定した目標指標だけではなく、市町村を取り巻く環境(外的な要因)や基本計画の第1章で中心市街地の現状を分析するために活用した様々な指標を活用して、多面的に分析をして下さい。また、活性化に貢献した事業や計画期間内に追加した事業、民間事業者・市民レベルの取組などについても触れて下さい。

特に、最新の実績値が目標値と大幅にかい離する場合は、抽象的な表現によらず、その要因となった具体的な事象を裏付けるデータや中心市街地への影響度などを記載して下さい。

【記載例】

計画していた事業は概ね遅延なく実施でき、50事業中25事業が完了、22事業を着手することができたため、概ね順調に進捗・完了したといえる。

一方で、世界的な経済状況の悪化(当市の小売販売額/〇〇億円<平成21年度>⇒××億円<平成26年度>:対平成21年度比□□%減)や商店街の後継者不足(商店街の空き店舗数/〇店舗<平成21年度>⇒×店舗<平成26年度>:対21年度比□□%増)など、当市を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いている。また、まちなかに居住者が増えているものの、少子高齢化の波は厳しく、それ以上に自然減が大きいなど、目標を上回らなかった指標もある。

ただし、このような状況においても中心市街地活性化基本計画における取組を着実に実施するとともに、新規事業を速やかに追加することで、負の影響を最小限に抑えることができた。

例えば、大型商業施設が中心市街地外へ相次いで出店する中、〇〇地区においては、老舗百貨店、商店街、地元企業等で構成される協議会を中心に、年間を通したイベントの実施など中心市街地の活性化に取り組むようになった結果、歩行者通行量の押し上げに貢献した。

また、道路整備効果を十分に活かすため、〇〇駅地区における住宅・業務・バスターミナル機能の整備や、地区における文化・娯楽・交流機能の整備など、活発な民間投資が次々に行われた結果、まちに新たな魅力が創出され、市内外から多くの来街者を集めるようになった。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

中心市街地活性化協議会として、中心市街地の活性化が図られたかどうかについて、当てはまる選択肢を○で囲んで下さい。

【詳細を記載】

認定基本計画に関する各年度の取組や中心市街地活性化の現状について、中心市街地活性化協議会としての意見を聴取し、記載して下さい。

【記載例】

〇〇市中心市街地活性化協議会としては、行政、関係団体等と協議・調整しながら中心市街地の

活性化を推進した結果、計画に位置付けた事業は概ね順調に実施されたと考える。

中心市街地内において、新しい複合商業施設の整備や商店街にぎわい支援事業などのソフト事業の実施、さらには道路整備事業の効果もあり、歩行者通行量は増加傾向に転じ、中心市街地の活性化に相当程度の効果があったものと評価できる。

一方、厳しい経済情勢などの影響から完了していない事業もあり、計画に掲げた3つの数値目標についても、「居住人口」は基準値を超えたが、目標は達成できなかった。「空き店舗数」については、目標達成はおろか基準値よりも悪化しており、今後の活性化推進に向けた課題となっている。

今後は、計画の事業効果を生かしながら、市民等各層からの十分な理解や参加のもと、引き続き官民一体となって中心市街地の活性化に取り組む所存である。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

中心市街地の活性化状況について市民の声を聞き、中心市街地の活性化が図られたかどうかについて、当てはまる選択肢を○で囲んで下さい。調査方法については、聞き取り形式、記入形式(アンケート形式)かは問いません。また、市町村の総合計画の策定時に実施するアンケートや商工会議所等が実施する街頭調査など、中心市街地活性化に関する市民意識が把握可能なものであれば、どのような調査の結果を記載して頂いても構いません。

【詳細を記載】

上記の選択肢とした理由について、市民の声の取りまとめ結果をグラフ等により具体的に記載して下さい。

【記載例】

〇〇市総合計画市民アンケート

調査日：平成〇年〇月〇日～〇月〇日

調査方法：市民〇〇〇人を無作為抽出しアンケートを郵送

有効サンプル数：〇〇〇人

計画期間前後で、「中心市街地に賑わいがあるか」という市民意識は改善していることに加え、「中心市街地の魅力」についても向上したという意見が多かった。

<「中心市街地に賑わいがあるか」という設問について>

グラフ

6. 今後の取組

計画期間終了後の市町村としての今後の取組を記入して下さい。

【記載例】

前計画の取組による賑わい効果を中心市街地全体へ波及させることが重要である。

また、市民アンケートからも、中心市街地の活性化については肯定的な意見が多かったものの、大半は変わらないと答えており、活性化に向けた一層の取り組みが必要である。

今後は、計画の成果を生かしながら、引き続き官民一体となって各地区の魅力をさらに高め、「観光・商業・交流によるにぎわいあふれるまちづくり」を推進していく。

具体的には、〇〇町の再開発事業、△△街区の商業活性化事業、□□□地区のアーケード整備、〇〇〇駅周辺都市拠点総合整備事業などによって、各地区の集客拠点を整備するとともに、観光情報発信事業などによって、各地区間の回遊性向上を図っていく。

(参考)

各目標の達成状況

計画終了年度の最新値を記載して下さい。※提出時点で「最新値」がまとまっていない場合には「〇月〇日確定」など時期も併記して下さい。年月については測定時点に記載して下さい。

「目標」「目標指標」「基準値」「目標値」は基本計画のとおり記載して下さい。
また、時点が確認できるよう、各数値の下に()で年度を記載して下さい。

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
賑わいのあるまち	歩行者通行量	4,000 人 (H21)	6,000 人 (H26)	6,500 人	H26.8	A
暮らしやすいまち	居住人口	1,200 人 (H21)	1,500 人 (H26)	1,350 人	H27.3	b
商業活力のあるまち	空き店舗数	50 店舗 (H21)	35 店舗 (H26)	52 店舗	H26.11	C

各目標指標の取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しについて、下記のA～cの評価方法(詳細はP17参照)に沿って分類して下さい。

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

フォローアップ対象の目標指標名を計画書のとおり記載して下さい。設定の考え方の該当ページも記載して下さい。なお、市独自の目標指標（参考指標）は作成不要です。

個別目標

「歩行者・自転車通行量（休日）」※目標設定の考え方基本計画 PO～PO参照

1. 調査結果の推移

過去からの推移をグラフにして下さい。認定前、認定後、基準値、目標値はそれぞれ色で区別して下さい。

グラフ

基準年から目標年までの数値を表に記載して下さい。

年	(単位)
HO	〇〇 (基準年値)
HO	
HO	
HO	
HO	〇 (目標値)

※調査手法：

※調査月：

計画書及びデータ測定年度調査等のとおり記載して下さい（記載例は P7 参照）。

※調査主体：

※調査対象：

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

基本計画第3章で目標値の積算根拠として記載している事業を中心に、当該目標指標の実績値にどのように寄与したのか記載して下さい。計画変更により追加した事業で目標達成に資する事業も記載して下さい。

①. 〇〇事業（事業主体名）

支援措置名及び支援期間	基本計画に記載されている支援措置名及び支援期間を記載して下さい。
事業開始・完了時期	基本計画に記載されている事業開始・完了時期 【済】【未】【実施中] ハード事業：未着手の場合は【未】、事業に着手している場合は【実施中】、事業が完了している場合は【済】と記載してください。 ソフト事業：未実施の場合は【未】、継続実施中の場合は【実施中】、事業が完了した場合は【済】と記載して下さい。
事業概要	3行程度で記載して下さい。
目標値・最新値	基本計画に効果の見込み値を記載している事業の場合は、当初想定していた見込み値と最新値を、計画書に記載していない事業の場合は最新値のみを記載して下さい。
達成状況	事業毎に、市の当初目標（見込み）を達成したか否かを判断して記載して下さい。計画書に事業毎に目標（見込み）を記載していない場合は、目標全体から見た達成状況を記載してください。
達成した（出来なか	達成出来た理由、または達成出来なかった理由を記載して下さい。

った)理由	
計画終了後の状況 (事業効果)	当該事業を実施したことによってどのような効果があったのかを記載して下さい。
〇〇事業の今後について	当該事業を今後も継続して実施するのか、終了とするのか、継続する場合は全く同じ方法で継続するのか等を記載して下さい(ソフト事業のみならず、ハード事業も記載)。完了したハード事業については「実施済み」と記載して下さい。

3.今後について

目標指標に関連する、計画終了後の取組や方針について記入して下さい。

【記載例】

目標達成に向けた主要事業である〇〇〇〇地区商業活性化事業は、厳しい経済情勢を受けて計画期間内に完了しなかったため、計画当初に見込んでいた効果が得られなかった。一方で、△△△△や□□□などの集客の核となる施設の整備は、歩行者通行量の増加に効果があったことから、引き続き、商業・業務・住居施設を整備する市街地再開発事業や、駅ビルの商業施設である商業活性化事業(〇〇〇プラザの増床など)を実施するとともに、△△△地区の再開発に向けた取組を推進し、各地区の魅力を高める。

また、商店街のショッピングモール化の推進により、歩行者通行量増の効果が得られたことから、天候の影響を受けずに買い物や散策ができるよう、アーケード整備などの関連する事業を実施する。

さらに、道路整備効果を中心市街地全体に波及させ、回遊性の向上を図るため、各エリアを繋げる路線の整備に向けた検討を行う。

最終フォローアップ報告における目標指標の評価方法

○基本的な考え方

- ・目標指標の最終値が目標値や基準値と比べてどうだったのかという視点と、計画した事業は予定どおり進捗・完了したかという視点で評価を行う。

